

# 市議団速報

HP <http://www.jcp-niigata-shigidan.com> No.277

2021年8月7日

日本共産党新潟市議会議員団

電話 025-226-3450

FAX 025-223-7748

Mail [jimukyoku@jcp-niigata-shigidan.com](mailto:jimukyoku@jcp-niigata-shigidan.com)

## 感染対策拡充・強化緊急申入れ

新潟市で新型コロナウイルスの感染者が急増していることを受け、県は市に対し「特別警報」を発令し、8月10日から23日までの14日間の営業時間短縮を要請しました。

党市議団は5日、感染拡大を抑え、コロナを封じ込めるための具体的な措置を求め、5人の議員全員が参加し、緊急申入れを行いました。朝妻博副市長と田辺博保健管理課長が対応しました。



朝妻副市長（右から3人目）に申入書を手渡す市議団

渡辺有子団長は、「特別警報」を出せば感染が抑えられるわけではなく、感染の心配のある人が気楽にPCR検査を受けられる体制づくりをし、早期に無症状感染者の把握・保護すること、県と協力して水際対策をとることが重要になっているとしました。

五十嵐議員は、感染源としては県外からの人たちも考えられ、飲食店への時短要請対策だけでは不十分。市はPCR検査に消極的な態度を続けているが陽性者は増えており、誰でも気楽に検査できるようにすることが必要と強調しました。

倉茂議員は、感染しているのではないかと心配・不安を持つ

人が気楽に検査できる体制をつくることは、あれこれのコロナ対策の一つではなく、封じ込めるために一番大切なことだと強調しました。

飯塚議員は、保健所の行政検査は濃厚接触者の周辺までに限定しており、濃厚接触者でない人が検査できる体制がないと指摘。パーキングエリアなどで予約なしで検査できる広島方式を学んで、市もやるべきと主張しました。

風間議員は、現状の検査体制の限界があるからとして、感染者が増える、警報を出すという繰り返しになっており、この悪循環を断ち切るメッセージが市民に伝わる対策を求めました。

朝妻副市長は、感染源は首都圏からの人の流れであり、感染の場はどこかと言えば飲食店だとの判断で時短要請をするという対応になっている。どうして飲食店だけなのかとの声もあり、県と協力してワクチン接種や補償、水際対策など、必要なことは検討していきたいと答弁しました。

しかし、今回強く要望した気楽に市民が受けられるPCR検査体制づくりに関しては、従来通り濃厚接触者に限るとの答弁でした。

### 生理用品の配置・トイレの改修実現へ

### 学校訪問始めました

党市議団は、6月議会で学校への生理用品の配置を求める質問を行いました。その実現を求めていくために、学校訪問をして実態を把握することにしました。



- 8月2日 白根・大鷲小学校（倉茂議員）
- 8月3日 亀田西中学校（渡辺・五十嵐議員）
- 8月4日 小須戸小学校（五十嵐・倉茂議員）
- 8月30日 南浜・岡方小学校（風間・飯塚議員）
- 8月31日 女池小・坂井輪中（渡辺議員・野本）

### 新型コロナウイルス感染症の急拡大に関する緊急申し入れ

1. PCR検査実施体制の抜本的拡充と強化について
  - ① 感染の心配のある人が気楽に検査できる体制をつくり、無症状感染者を早期に把握・保護すること。
  - ② 市民の安心・安全のために、広島県等の先行事例を参考に、水際対策を県と協力して行うこと。
2. 宿泊療養施設の十分な確保を県とも協力して行うこと。また自宅療養者への生活支援と、必要な医療にすぐにアクセスできる仕組みを整えること。
3. 事業者到时短等の要請を行う場合は、事業の継続ができる十分な補償を県に求めること。また、市独自でも上乗せを検討すること。
4. 生活困窮者への給付金を国に求めること。また、市独自でも給付金を支給すること。
5. 国保に加入している事業主が新型コロナに感染した場合も傷病手当金の対象とすること。
6. 東京五輪の中止を国に求めること。